

CPD 講演会「脱炭素社会を目指す」― 欧州と日本の取り組み動向

～地域での実践と SDGs への貢献のために CPD 講演会

主催：公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部

温暖化を産業革命前から+1.5℃（あと 0.4℃）未満で止めるためには、温室効果ガス排出量を 2050 年までに実質ゼロ、2030 年までに 50%以上削減する必要があるという認識が世界で広く共有されています。

しかし、脱炭素へ向けての世界の現状は厳しいものがあります。数年前まで気候変動対策において世界をリードしていた欧州ですが、ウクライナ戦争による環境破壊とともに気候変動対策も足踏みしているようです。その具体的な動きについて、講演－1でお話しいたします。一方、平和な日本でも、今年8月洋上風力からの一部の有力企業の撤退など順調とはいえない状況です。そのなかで注目されている「CO₂を発生させない技術」と異なり、「CO₂を地中に貯留する」ことで大気中にCO₂を出さない二酸化炭素回収・貯留（CCS）事業について講演－2でお話しいたします。

講演－1「ウクライナ戦争と欧州の気候変動対策について」 講師 足立 治郎 氏

<講師プロフィール>

「環境・持続社会」研究センター（JACES）事務局長。化学・素材系企業勤務（営業部・人事部）を経て、1995 年より JACES スタッフ。島根県立大学・東京家政大学非常勤講師、（一社）SDGs 市民社会ネットワーク環境ユニット幹事、CSR レビューフォーラムレビュアー等を兼務。東京大学教養学部卒。著書に『環境税』（築地書館、単著）、『カーボン・レジーム』（オルタナ、共著）、『ギガトン・ギャップ―気候変動と国際交渉』（オルタナ、共著）等。

<講演概要>

今回講演は以下のような構成に基づき進めます。

1. ウクライナ戦争と国際社会への影響：ウクライナ・ロシア、欧州、その他の国・地域、国連等への影響（環境的側面、プラス、経済・社会的側面も含め）
2. 欧州の気候変動対策の現状：ウクライナ戦争との関連、欧州以外の国・地域の政策・対策との関連も踏まえ、欧州の各種気候変動政策・対策に関する議論・現状を紹介
3. 日本への影響と今後の展望：日本の民間セクターの役割を含め

講演－2「二酸化炭素回収・貯留（CCS）の事業化に向けた現状と課題：CCS 普及の鍵となるモニタリングの役割」

講師 毛利 拓治 氏

<講師プロフィール>

2011 年に大学院修士課程を修了後、独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 JOGMEC に入構。同機構において、これまでに、国内の石油・天然ガス探査、地熱資源開発技術の開発、石油・天然ガス開発事業におけるモニタリング技術の研究等に従事。現在は、CO₂貯留事業におけるモニタリングの実証試験や動向調査等に取り組む。専門は応用地球物理学。

<講演概要>

CCS（Carbone Capture and Storage）はカーボンニュートラルの達成に不可欠な技術として、近年世界中で急速に業界の規模が拡大しており、国内においても複数の事業が進められています。本講演では、CCS の概要及び国内 CCS を取り巻く環境について整理した上で、事業化に向けた課題やそれらの課題に対する国や JOGMEC の取り組みについて紹介します。また CCS の社会受容性獲得において重要となる、CO₂貯留に係るモニタリング技術の役割や課題等に焦点を当てて取り上げます。

日時：2025 年 12 月 7 日（日） 13：20～16：40（休憩等 25 分） 13：05 入場受付開始

場所：ウエスタ川越 1 階会議室第 2、第 3 川越駅西口から一直線、徒歩 5 分 ☎049-249-3777

定員：50 名（申し込み順） 参加費 会員技術士及び技術士補：1500 円、会員外の方、一般：3000 円

申込先：

[会員・準会員]CPD 行事新申し込みシステム <https://www.engineer.or.jp/kaiin/password/cpdevent/cpdeventlist.php>

[非会員・一般]日本技術士会 HP 一般 CPD 行事案内 <https://www.engineer.or.jp/ippan/dmsw0211.php> 振込先等メールにて連絡します。

締切：会員・準会員（12 月 1 日、月曜日）、非会員・一般（11 月 27 日、木曜日）

<問い合わせ先・担当>

代表メール：saitama@engineer.or.jp 埼玉県支部地域活性化委員会西部地域小委員会